

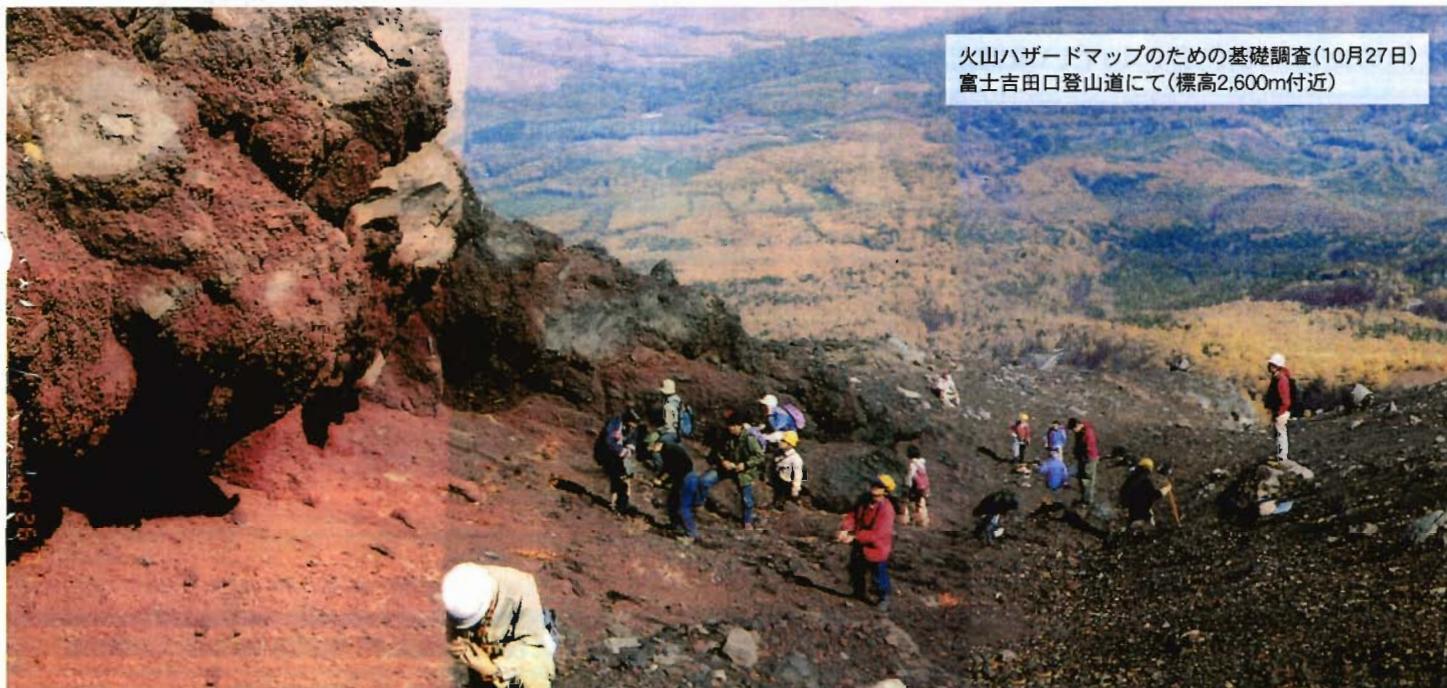
## FUJI SABO通信

●発行/国土交通省中部地方整備局 富士砂防工事事務所 富士宮市三園平1100  
電話0544(27)5221 http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/

## ふじあさみ

No.35

富士山の噴火に備えて積極的に取り組んでいます!

火山ハザードマップのための基礎調査(10月27日)  
富士吉田口登山道にて(標高2,600m付近)

## 35号目次

富士山の噴火に備えて積極的に取り組んでいます!	1
<b>富士山ハザードマップ検討委員会 設置</b>	2
○部会設置 ○部会の活動状況	2
○基礎的調査	3
<b>富士山の火山防災のための地元の自治体の取り組み</b>	4
○平成13年度 山静神合同火山防災訓練	4
○火山防災ハンドブックの市町村による増刷、全戸配布	4
●二次災害を防ぐ無人化施工	4
<b>猪の塗川渓流保全工</b>	5
<b>用地課紹介 あなたの土地が社会を豊かにします</b>	5
<b>今年度の植生を活用した取り組みレポート</b>	6
●フジアザミの導入	6
●ミヤマハンノキの導入	7
<b>総合学習・来訪者 報告</b>	8
●初の「大沢・潤井川サミット開催」	8
●富士宮二中「富士山学習」討論会	8
●富士宮西高生がフジアザミの種むき作業体験!!	9
●ナショナルジオグラフィック取材	9
●JICAのイラン国研修	9
<b>第6回「富士山への手紙・絵コンクール」表彰式</b>	10
●村松友視氏 講評・対談	10-11
○表彰式 ○受賞者の声 ○作品の展示	10
<b>富士砂防工事事務所 10大ニュース!</b>	12

平成12年10月以来富士山の地下20キロメートル付近を震源とする低周波地震が急増し、また有珠山、三宅島の噴火が相次ぎ、内閣府を中心とする国、静岡県、山梨県や関係自治体及び研究機関等が、万が一の噴火に備えた種々の対応に着手しました。

2001年9月以後、低周波地震の回数は月に数回程度であります、「ふじあさみ33号(2001年9月)」で紹介した取り組みが、この半年間の富士山火山ハザードマップ検討委員会や自治体などの種々の活動、富士砂防の動向を含め報告します。



▲1月18日 平成13年度山静神合同火山防災訓練 無人化施工訓練による大型土のう運搬

# 富士山火山防災ハザードマップ

検討委員会  
活動状況

富士山は国内の他の火山に比べ山体が大きく、広域的な防災対策が必要であるほか、次期噴火形態の想定などに技術的課題が多くあることなどから、地元自治体と国が富士山ハザードマップ作成協議会を7月11日に設立し、学識者からなるハザードマップ検討委員会に諮問し、協力して平成14年度末までにとりまとめることとしています。



## ハザードマップ検討委員会に2つの部会設置

これまで作成された火山ハザードマップでは、一般への周知、防災機関での活用、火山と共存する地域づくりに、十分配慮したものを目指し、以下の項目を検討するため2つの部会を設置しました。

### A. 火山災害マップ作成部会(基図部会)

部会長:荒牧重雄 東京大学名誉教授

- ① 過去の噴火災害実績図の既存資料の吟味、調査等
- ② 将来の噴火想定  
(噴火シナリオの想定、噴火形態別予測シミュレーション)
- ③ 噴火被害の想定(二次的な土砂災害等を含む)

### B. ハザードマップ活用部会(活用部会)

部会長:廣井脩 東京大学社会情報所長

- ④ 防災機関における情報流通、活用を踏まえたハザードマップのあり方(観測監視体制・緊急時災害対応)
- ⑤ 一般住民、民間企業等に対する情報提供、活用を踏まえたハザードマップのあり方
- ⑥ 市民生活、観光等産業と防災対策の共存などハザードマップとして配慮すべき事項
- ⑦ ハザードマップにおけるGIS(地図情報システム)の活用



▲写真-2:7月28日勉強会(富士砂防)

### 部会等の開催状況

平成13年	7月16日	ハザードマップ検討委員会(第1回)
	7月28日	ハザードマップ検討会勉強会(富士宮市:富士砂防)
	8月22日	第1回活用部会(東京:ルポール麹町)
	9月10日	第1回基図部会(東京:ルポール麹町)
	10月9日	第2回活用部会(東京:東京ドームホテル)
	10月21日	ハザードマップ 基図部会勉強会(東京:弘済会館)
	10月26~8日	基礎調査 現地調査(富士宮市、富士吉田市、御殿場市)
	10月31日	第2回 基図部会(東京:東京ドームホテル)
平成14年	1月8~9日	第3回 活用部会(市町村意見交換会)(御殿場市)
	1月22日	第3回 基図部会(東京砂防会館)

### 部会などの活動状況

二つの部会は、それぞれ月1回のペースで精力的に東京で開催され、毎回事務局及び委員から新たな見地を含んだ資料が提出され、多様な意見、提言が活発に寄せられ検討が強力に進められています。

1月8日に御殿場で開催された第3回活用部会は、関係する静岡、山梨、神奈川県と19市町村の防災担当者との意見交換を行い、翌日は荒牧委員長の案内のもとに、北里内閣府審議官をはじめとする約30名が現地を視察しました(写真-1)。

さらに、これらとは別に部会関係者による勉強会・現地検討会が富士宮や富士山麓でも実施され、富士砂防工事事務所は会場の設営や現地案内を行っています(写真-2)。

★富士山火山ハザードマップ検討委員会の活動状況は内閣府のホームページをご覧になれます。

<http://www.bousai.go.jp/fujisan/>

# ハザードマップ作成のため富士砂防による基礎的調査の推進

富士山は故・津屋東大理学部教授など、数多くの研究者により調査されていますが、不明な点が数多く残されています。富士山の火山ハザードマップを作成する上で、どうしても明らかにしなければならない項目について、富士砂防工事事務所を中心に、山梨県、内閣府により次のような現地調査を集中的に実施しています。

今回、現地調査を実施した主な項目と内容は以下の通りです(図-1)。

## ① 北東方向に流下した剣丸檜溶岩の火口・体積調査

溶岩流のシミュレーションを検討する上で重要な、同溶岩の分布、厚さ、火口位置を現地踏査、薄片調査を行いました(表紙写真上段)。

## ② 2000年前以後の降下火碎物(テフラ)を伴う噴火の年代調査

富士山の降下火碎物を伴う噴火の年代と分布範囲を把握する必要があります。

御殿場と忍野の湿地に降下したテフラは保存状態が良く、泥炭がはさままっていると年代測定が可能なため、2ヶ所でトレンチ調査(縦穴を掘削し、詳細な観察と分析用資料を採取)を実施しました(写真-3)。また、山頂との中間点として、御殿場登山道近くの幕岩でトレンチ調査も行いました。

## ③ 山頂噴火の調査

2200年前以後の山頂噴火の有無を確認するため、山頂火口の周辺及び内部を詳細に踏査、岩石分析を行いました(写真-4,5)。

## ④ 火口の位置などの調査

人家に近く低い標高地域で噴火した場合は、人身に与える影響は大きいので、比較的新しい火口とされる、北東地域の大臼・小臼、雁の穴丸尾溶岩の火口を地表踏査、薄片観察を行いました。

また、高温で斜面沿いに火碎物が流下したといわれる堆積物が報告されている、富士吉田登山道7合目から北富士演習場の北縁にかけての滝沢沿いで地表踏査、法面掘削調査及び粒度分析を実施しました。

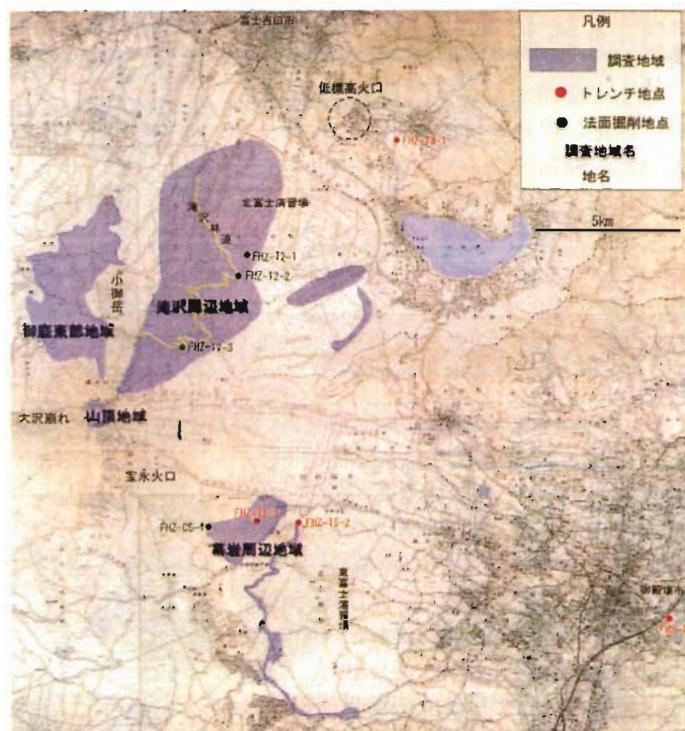
### ● 厳しい条件下における精力的・集中的調査

これらは、山頂部など夏期の限られた期間に、国立公園の特別保護地域や自衛隊の演習場内部など、関係機関や地権者の方々の多大な理解と支援をいたたいて、時には高山障害になやませられながら、砂防地すべり技術センターをはじめとするアジア航測、日本工営、ダイヤコンサルなどの方々により集中的に実施されています。

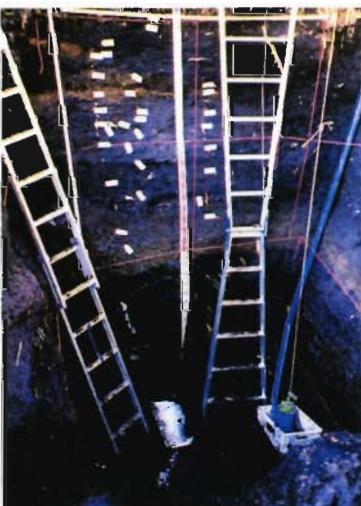
ハザードマップ検討委員会のメンバーである、小山静大教授、宮地室長から独自の調査、研究も含めた精力的なご指導をいただき、荒牧委員長、藤井東大教授にも現地の鑑定などご指導をいただき、東京大学地震研究所、独立法人 産業総合技術研究所、上杉 都留文科大学教授など共同調査、協力、情報・意見交換などが積極的に行われています。

### ● その他の関連調査

宝永噴火の降灰シミュレーションの検討をする上で、噴火の推移を詳細に把握するため、史料調査と既往研究の再整理を行っています。さらに、酒匂川における宝永噴火後の泥流被害に対し史料調査を実施しています。それらの結果は現在とりまとめですが、新たな知見が多数含まれ、ハザードマップ作成を契機に関係機関が集中調査した稀有の成果が得られると思われます。



▲図-1:基礎的調査実施区域図



▲写真-3:忍野村トレンチ



写真-4

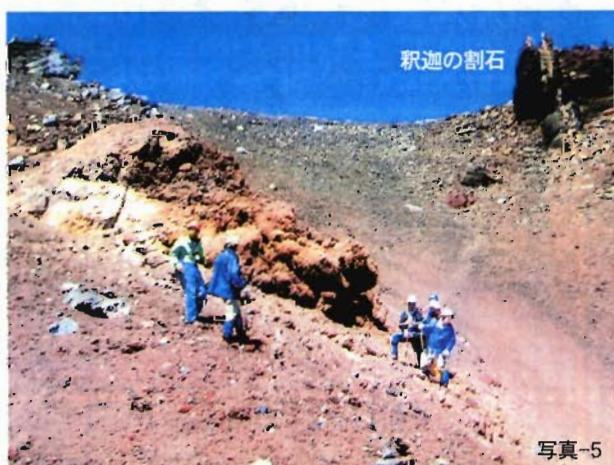


写真-5

※写真-4、5:8月25日山頂踏査 小山、宮地、鵜川委員らと。産総技研、東大地震研とも合流。

## 富士山火山防災シンポジウム ～宝永の大噴火と災害から学ぶ～

- 日時／平成14年2月22日(金)
- 場所／御殿場市 市民会館 大ホール

### 第1部 基調講演

- 富士山の火山災害と宝永噴火 静岡大学教育学部 教授 小山 真人
- 宝永噴火の被害と対応 学部院女子大学国際文化交流学部 教授 松尾 美恵子

### 第2部 パネルディスカッション

- コーディネーター:山崎 登(NHK解説委員)  
話題提供・総合討論・質疑応答

# 富士山の火山防災のための地元の自治体の取り組み

## 平成13年度 山静神合同火山防災訓練

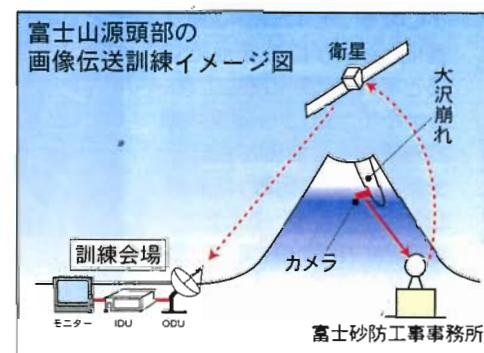
富士山の噴火に備えた訓練は、昨年6月山梨県が単独で実施されましたが、**山梨、静岡、神奈川の三県合同**で初めて1月18日に富士吉田市内で行われました。

三県の防災関係機関や地元住民ら**62団体、約8,000人**が参加し現地対策本部には、**政府派遣団**として国土交通省砂防部の**杉浦火山・土石流対策官**が出席しました。

18日9時に北東山麓中腹から噴火、火山灰を噴出、溶岩も流下した想定のもと、北富士演習場内では、溝を掘り盛土して溶岩の流れを変えて市街地への流出を防ぐ**導流工を設置する訓練**を、我国で初めて実施しました。**富士砂防**は協力機関として、主な現地訓練会場となった下吉田第二小学校に、衛星通信を利用して富士山源頭部のCCTVカメラの**画像を送り**、また、溶岩流出後、**遠隔操作による無人化施工**で緊急に導流工を築く山梨県土木部の訓練の支援を行いました。



▲富士吉田合庁に設置された現地災害対策本部



▲衛星通信による映像受信訓練

### 火山防災 ハンドブックの 市町村による 増刷、全戸配布 17万5千部

地元では火山災害を危惧する観光客の減少を心配し、富士山を活火山とすることをタブー視してきましたが、火山災害に対する防災担当者及び一般住民に正しい認識を得る必要性を痛感し、平成11年10月に富士宮市で富士山火山防災講習会を実施。この際作成したテキストを元に、一般向けにわかりやすく解説した「富士山火山防災ハンドブック」を平成12年3月に作成しました。これを期に、地元自治体の火山災害に対する関心が高まり、同ハンドブックが高く評価され、静岡県内の富士山麓の各市町村は独自の予算で17万5千部を増刷し、全戸配布しました。

### 二次災害を防ぐ無人化施工が 雲仙普賢岳、有珠山、三宅島などで活躍!

火山噴火による溶岩流や火山泥流が流出した場合、応急対策や災害復旧は緊急性を要します。しかし、火碎流・噴石・火山性有毒ガス・土石流などによる二次的な災害が危惧されるため、現地内及び周辺に立ち入れないことがあります。



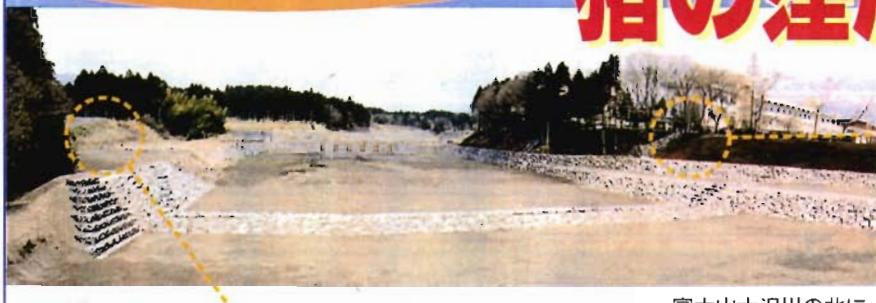
▲雲仙普賢岳における遠隔操作による建設機械の稼動



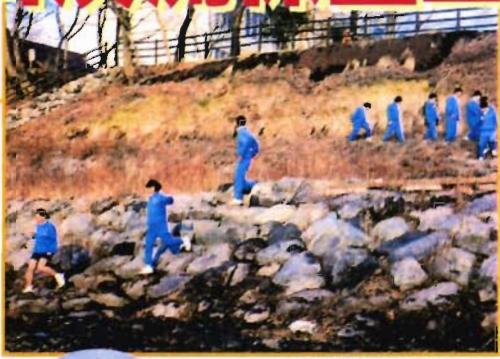
これに対し、無人化施工はGPSや現場監視カメラ、操作カメラなどによる遠隔操縦で現場状況や機械の位置などを把握しながら操作するものです。雲仙普賢岳など噴火後の災害復旧では、ブルドーザやバックホウ、ダンプトラックなどを遠隔操縦し、除石工・構造物撤去工・ブロック積などをを行い、土砂被害の拡大を防ぐ効果を上げています。

西富士中の環境教育の場を

# 猪の窪川渓流保全工



▲植樹の育成調査



▲自然石による護岸と階段

富士山大沢川の北に隣接する滑沢などを源とし、見返し沢と合流する猪の窪川は、管内では最も大きな渓流で、平成3年から中学校に隣接した沈砂地工事に着手しました。

当校は平成12年からは榎原校長先生以下富士砂防を体験学習として熱心に取り組まれ、「緑のゼミナール」の開催、リサイクルボットを活

用した植樹と育成、大沢川扇状地砂防施設の見学などを全校で実施されています。

学校周辺の自然環境への配慮と広大な砂防空間の平常時の活用を図るため、学校と話し合って自然石を張った護岸や坂路、階段を設置し、猪の窪沈砂地ダム下流へ植樹された樹木の育成調査や管理のため、工夫しています。今年はプール寄りに石張り階段を設けますが、ここを利用して高水敷広場を学校の行事等で活用されることがあります。

十年後、猪の窪川は植樹した広葉樹の木々が四季を彩り、すばらしい渓流空間を創造していることでしょう。

## 西富士中学校からのコメント



当校に隣接して砂防工事を行うと聞いた時点では、どのような施設ができるのか不安と興味が半々でした。

当方からの要望事項を打合せ調整するなかで快く意見を取り入れて下さり、実際に出来あがった護岸などを拝見して大変満足しています。今後は、これらの施設を学習に活かしたいと考えていますので、よろしくお願いします。

富士宮市立西富士中学校長 榎原 正彦

## 用地課紹介

# あなたの土地が社会を安全に豊かにします

ながく親しんだ身の回りには、思い出がいっぱいです。しかし、「ここが危ない」といったことを感じることもきっとあるはずです。

土砂災害から地域を守り、より安全なまちづくりを行うために、そこに暮らす皆様のご協力が必要になっています。

富士砂防では、事業の対象となりました皆様の大切な財産を利用させていただき、土砂災害の危険を無くしていきます。

## ●あなたの土地が生まれ変わるまで●

- 1 事業説明
- 2 測量調査
- 3 补償などの説明
- 4 契約
- 5 移転・引渡し
- 6 新しい工事の始まり

大切な財産を使わせていただくため土地を測量し、そこにある建物や樹木などの現況を調べます。  
公共事業の内容とその必要性について説明を行い、事業区域を明らかにします。

補償の内容をご理解いただいた後に土地売買や移転補償などの契約となります。



画:総務課 鏡味

この3名で伺いますので  
今後ともよろしくお願ひします。

# 今年度の植生を活用した取り組み中間報告

富士山からの土砂災害を防止するために、崩壊や土石流に対して、コンクリートや鋼材など強固な素材を用いて対応しますが、工事の影響のあった部分に植生を復元し修復したり、地表面が安定した箇所に斜面の崩壊を防ぐ手段の一つとして植物の力を導入しようと試みています。そのため、静岡大学理学部増沢武弘教授の指導のもとに、富士山に成育し森林が破壊された場所にいちはやく侵入し、成育するフジアザミの研究と調査を始め、木本類のミヤマハシノキの導入を平成8年から試みています。

## ■斜面対策工における植生工の位置付け

- 斜面対策工施工後の地表面修復
- 植生被覆による風化、凍土、雨滴、表面流の緩和

## ■富士山源頭部における厳しい自然条件

- 表層土の移動が頻繁
- 気温の日較差大、冬期の低温・凍土
- 強風 ●乾燥、貧栄養の土壤
- 積雪・雪崩による被害

## ■フジアザミの特性と選定理由

- 富士山火山性荒原に群生する在来種
- 多年生草本類（7~10数年）
- 貧栄養でも生育する
- 日照を好み乾燥にも強い
- 大型で葉質の厚いロゼット葉
- 根の発育が速い ●2mにも及ぶ直根
- 多量の種子（数百個）を付け風に舞う
- 地下根に栄養を蓄え越冬



▲写真-1:2年生のフジアザミ

## フジアザミの導入

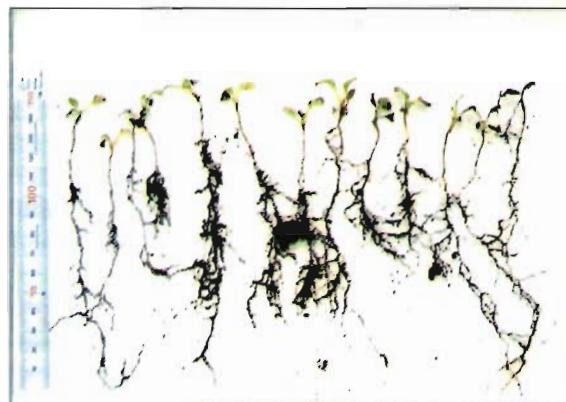
### 圃場の整備

フジアザミの種子と苗木を確保するため、平成5年に岩槻左岸（標高900m）に苗畠圃場を設け、独自に栽培を開始し、播種→発芽→着花→種子採取→播種という育成サイクルが確立されています。順次拡大し、平成11年により気象が適した大滝（標高1,500m）に200m<sup>2</sup>を増設しました（写真-3）。

一昨年の大土石流が流下した時に岩槻右岸の圃場は土石流が乗り上げ、その区分のフジアザミの苗が全滅しましたが、地盤をあげ巨石で囲んだ上で拡張しました（表-1）。

### 種子採取

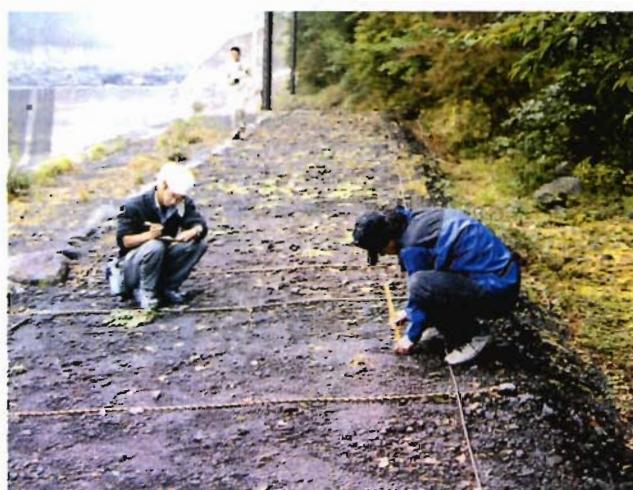
種を播き必要に応じ水撒きや除草を行い、生育に合わせ移植して適正な間隔で栽培し、着花後、受粉のすんだ花の一つ一つに袋をかけて飛散するのを防ぎ、秋の終わり頃に収穫を行い、自然乾燥させた後に手作業で種むきをします（写真-4）。種子は平成11年に18万粒が収穫でき、一昨年は土石流被害で減少しましたが、今年は13万粒を収穫しました（表-1）。最近では、ノウサギによる食害が発生し、全体の40%が被害にあっています。



▲写真-2:1年生のフジアザミの根の状況



▲写真-4:種子採取のための袋かけ（岩槻圃場）



▲写真-3:フジアザミを計測する増沢教授 (大滝圃場)

## ●フジアザミ育成プロセス フロー図



## 大沢川源頭部調査工事への フジアザミ移植

2~3年生のフジアザミの苗を平成8年から標高2,150mの源頭部調査工事の土留工に移植し、活着・生育状況を追跡調査しています。その結果、ほぼ7割が厳しい環境に耐え生き残り、順調に成長しています。



▲写真-5:移植したフジアザミの生長量を測定(調査工事)

### フジアザミ種子吹付け試験工事

平成9年度に調査工事の100m<sup>2</sup>の斜面にフジアザミの種子を約2万粒吹き付けました。4年が経過し、今年度には817株が生育しており、そのうち約10%に花が咲きました。

表-1 フジアザミの圃場整備状況とフジアザミの種子採取状況

2001.12月現在

年 度	新規整備面積(m <sup>2</sup> )				種子採取(粒)				単位:万粒
	岩槻右岸	岩槻左岸	大滝左岸	合 計	岩槻右岸	岩槻左岸	源頭部	その他	
1993	(40)	—	—	(40)	—	—	—	—	—
1994	(200)	—	—	(200)	—	—	—	—	—
1997	—	900	—	900	—	—	—	—	—
1998	—	—	—	—	5.0	—	—	—	5.0
1999	(470)	—	200	(670)	7.0	6.0	5.0	—	18.0
2000	土石流発生	—	—	—	—	7.0	—	—	7.0
2001	750	—	—	750	—	4.3	4.3	4.5	13.1
合 計	750	900	200	1850m <sup>2</sup>	12.0	17.3	9.3	4.5	43.1

表-2 源頭部調査工事に移植したフジアザミの残存状況

2001.9月現在

調査年月	1996年 移植			1997年 移植		
	440本(14本/m <sup>2</sup> )			270本(5本/m <sup>2</sup> )		
	残存数(n)	残存率(%)	n/m <sup>2</sup>	残存数(n)	残存率(%)	n/m <sup>2</sup>
1996年9月	361	82%	11.7	—	—	—
1997年9月	238	54%	7.7	258	96%	4.6
1998年9月	182	41%	5.9	232	86%	4.1
1999年9月	151	34%	4.9	214	79%	3.8
2000年9月	126	28%	3.9	200	74%	3.7
2001年9月	114	26%	3.6	195	72%	3.6

## ミヤマハンノキの導入

### ミヤマハンノキの特性

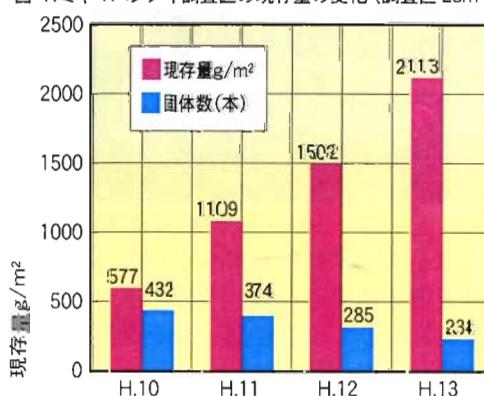
ミヤマハンノキの特性はフジアザミ同様、裸地にいち早く侵入し、生長が早く、乾燥、貧栄養地に強く、樹形が地表をはうように生育し雪崩などの押し潰す力に対して柔軟に対応でき、根が土壤や礫を抱え込むように伸び、根粒菌と共生しているため空気中の窒素を固定して栄養分とすることができ、葉は窒素をたくさん含み「肥料木」といわれます。

### ミヤマハンノキの生育状況調査

ミヤマハンノキの生態には不明な点が数多く残っており、増沢教授のもと平成10年に調査区(コドラーート)を定め群生調査を実施し、特に固体数と現存量(サンプル木の乾燥重量と幹の直径の関係をまとめ、それを基に幹径から生長量を調べる方法)により、経年的変化を調査しています。また、自然における種子の飛散状況を把握するため、シード・トラップ調査(地表にネットを固定し飛来する種子を捕まえる)をH12年度から開始しています。

### ミヤマハンノキの苗の移植

図-1:ミヤマハンノキ調査区の現存量の変化(調査区 28m<sup>2</sup>)



ミヤマハンノキの種子や苗木の入手は困難を伴い、増沢教授の研究室で養育された苗木をH8年度から調査工事上部に移植しています。しかし、大半が枯死したり、虫やカモシカの食害にあったりして、なかなか残存できません

した。H13年度は、2年生苗木15株をポット鉢ごと移植し、80%が根づきました。また気候に順応させてから移植するため大滝圃場に105株を一時移植し、来年度調査工事へ移植する試みのため105株を大滝に移植しました。

近い将来、フジアザミが地表面を押さえている間にミヤマハンノキが生長することを期待する同時移植の導入をめざし研究を進めていきます。



▲調査工事斜面に生育するミヤマハンノキの実態調査



▲自然状態における種子の飛来を調査  
シード(種子)・トラップ(わな)調査(調査工事現場)

# 総合学習レポート

●富士宮西富士中 ●富士宮四中  
●富士市立吉原二中 ●田子浦中

## 初の「大沢・潤井川サミット」開催

「大沢・潤井川が学区に流れる」というつながりがある富士市・富士宮市の4つの中学校の代表が集まり、総合学習の一環として大沢・潤井川に関して進めてきた研究を発表し合い学びを深め合おうという「大沢・潤井川サミット」が昨年11月17日に富士宮西富士中にて開催されました。

リサイクルポット植樹をきっかけに、大沢崩れに興味をもったという西富士中の山口透君、宮島優君は「大沢崩れがなぜ起こるのか」という研究テーマを発表し、「富士山のふもとで暮らす地域の人間としてただ守られるだけではなく、自分達にも何かできないかと考えるべきだと思います。」としてリサイクルポットによる植樹活動の促進を呼び掛けました。

吉原二中の大場清那さん、近藤知里さんは「富士山緑のゼミナール・リサイクルポットによる植樹活動」をテーマに発表を行い「富士山緑のゼミナールに参加し、私達が普段気づかず生活している環境保全や防災について知ることができました。今後、総合的な学習などを通してさらに詳しく調べたり、環境ボランティアなどの活動にも参加したりして行きたいです。」と、抱負を述べました。



リサイクルポット植樹をきっかけに、大沢崩れに興味をもったという西富士中の山口透君、宮島優君は「大沢崩れがなぜ起こるのか」という研究テーマを発表し、「富士山のふもとで暮らす地域の人間としてただ守られるだけではなく、自分達にも何かできないかと考えるべきだと思います。」としてリサイクルポットによる植樹活動の促進を呼び掛けました。

### サミット宣言

大沢・潤井川サミットでの学習を通して  
私達は次のことを宣言します。

- 大沢川・潤井川の自然を学び、より良い環境づくりを目指します。
- 大沢川・潤井川へかかる負担を減らすように努め、この自然と共に生きてていきます。
- 大沢川・潤井川の未来のために、周りの人の理解を深め、環境の保全に取り組みます。

平成13年11月17日「大沢・潤井川サミット」



▲真剣に研究成果を発表する生徒

研究テーマ等	発表生徒
●大沢崩れ—僕たちにできることは何か—	西富士中2年 山口 透 3年 宮島 優
●潤井川のゴミの現状と課題	富士宮四中1年 安竹 涼平 1年 深沢 慎平
●リサイクル・ポットのしくみと植樹活動	吉原二中2年 大場 清那 2年 近藤 知里
●総合的な学習の取り組み (リサイクルポットの効果)	吉原二中2年 藤井 康友 2年 安陪 孝太
●潤井川の水防と田子浦橋付近の水質	田子浦中2年 小路 直哉 2年 加藤 駿一

### 「皆さんのが教科書をつくるよう頑張りましょう」

——サミットに参加した花岡所長の講評——

「富士山にはわからないことが沢山あり、今回皆さんは、教科書に載っていないことを自分達で調べ発表されました。大切なことは自分でデータの取り方を考え現場に行って調べて、判断できるようになることです。さらに研究のレベルを深め、ゆくゆくは皆さんのが教科書をつくるよう頑張りましょう。」

## 富士宮二中「これからの富士宮を考えよう!」



▲発表風景

富士宮二中では、郷土への理解と愛情を深め、郷土づくりに参画しようとする意欲を伸ばすことを目的に、富士山に関わる自然、産業、歴史、文化、環境などについて自主的に研究する「富士山学習」の一環として、昨年12月13日、「これからの富士宮を考えよう。」というテーマで、2年生の富士山学習の討論会が行われ、花岡



▲討論に参加する花岡事務所長

所長が外部コメンテーターとして招かれました。富士宮の湧水・自然・特産物・街づくりの各コースに分かれて富士山学習を進めてきている代表者の学習発表を基に活発な討論が交されました。

富士山の自然環境に関する討論では、植樹作業を体験してきた生徒が植樹作業のたいへんさを話したのを受けて、花岡所長が富士砂防で進めているリサイクルポットによる効率的な植樹方法を紹介しました。

## 富士宮西高生がフジアザミの種むき作業体験!!



▲ピンセットを使った種とり作業

平成13年12月19日に、県立富士宮西高生22名が富士砂防職員といっしょにフジアザミの花の種むき作業を行いました。富士山源頭部（標高2,200m）で採取した乾燥させた花実から、ピンセットを使って綿毛をつけた種をほぐし、ごまのような小さな種だけを取り出す、根気のいる作業に、真剣なまなざして取り組んでいました。

富士宮西高は、総合学習のテーマの一つである「富士山研究」で富士砂防の事業をテーマに、講議や現地見学、植樹などを実施しており、今回の種むきもその一環として行われました。



▲この日とれた8000粒の種 (33.6g)

## ナショナルジオグラフィック取材



▲積雪のお中道を歩く取材班

全世界の180ヶ国に1000万人もの読者を持つと言われる「ナショナルジオグラフィック(National Geographic)」は、数多くの古代遺跡や未知の地球、動植物の生態など驚異の世界を、世界第一線の写真家の撮影による迫力ある写真と文章で紹介する、総合写真誌です。その「ナショナルジオグラフィック」が、2002年8月に特集として富士山を取り上げます。その取材の一環として、富士砂防工事事務所と大沢川源頭部調査工事現場を取材しました。

女性カメラマン、カレン・カスマウスキー女史は積雪の中、お中道を訪れ、大沢崩れとヘリコプター資材輸送や工事作業を熱心に撮影していました。

## JICAのイラン国研修

イランの砂防事業を担当している農業開発推進省のナビ・ヤリ所長ら5名が、11月20~21日にJICA(国際協力事業団)の現地研修に訪れ、大沢川扇状地の遊砂地、渓流保全工などの砂防施設と大沢崩れを踏査しました。大沢崩れの現地調査では、御中道に積雪のためアイゼンを着けての踏査となりました。



△大沢川遊歩地7号床工にて

ラマダン(断食月)にあたり食事を心配しましたが、旅行中は除外ということで、大沢川源頭部調査工事現場で、大沢崩れを眺めながら持参の敷物と食器を広げ、イラン式パン、ハム、びん詰めのキューリの漬物で優雅な昼食となりました。

ナビ・ヤリ所長は現地見学の後「イランではコンクリートはあまり使用しないが、今後は積極的に使うよう検討したい」「土石流監視システムは是非取り入れたい」等の感想を述べていました。



△源頭部調査工事現場で昼食

第6回

# 「富士山への手紙・絵コンクール」表彰式



▲左より、中村徳亜さん、望月真紀子さん、山中智美さん、廣橋奈央子さん、磯野麻友さん、大石有紀さん、角田充さん、上野都志江さん。

## 講評（村松審査委員長）

今回で6回目ですが、1つの傾向があるように感じます。最初の頃の幼児・小学校低学年の作品にみられた、大人には考えつかないバランス、色使いなど、衝撃的な作品がここ一二回減ってきました。逆に、高校生・成人的な部の作品は、技術的にうまい上に、そのうまさがいやな感じを与えない、感動につながるような作品が増えたと感じます。

今回も非常にたくさんの応募がありましたが、年々競争も熾烈（しれつ）になって、厳しくなりましたが、富士山のところどころのすごさが少し薄まっている反面、絵画としての心地よさが加わってきたと感じました。

文章の部門では、一番陥りやすいのは、富士山の偉大さ、すごさ、大きさに対する賛美歌で終わってしまい、あるいはそれに人間の運命などをからめて、美談的な作品になってしまっています。その点、今回は非常に選び甲斐のあるレベルに達していました。両方に共通して、技術が上手くなると、直接的な感動が遠のき、観念的になってしまいます。そこをかいぐって自分の感性を描いたり、綴ったりするのは大変なことです。

しかしながら、文章を書くことを仕事としている私でも、非常に感心する部分が、皆さんの作品から発見できます。回を重ねるに従って、技術と信条のバランスも変わっていく気がしますし、選考委員としてその変化を楽しみたいと思えるほど、全体のレベルが上がってきています。

## 受賞者の声

### ●絵部門最優秀賞 中学生の部／角田 充さん

版画を使ったように見えるのは、どういう発想から生まれたんですか？  
角田：日常見ていよいよ富士山を描いてみました。  
毎日見ても季節によって違うと実感しますか？  
角田：はい。  
どの季節が一番好きですか？  
角田：夏の雪もなくなくて、さっぱりした感じがいいです。

### ●手紙部門最優秀賞 中学生の部／山中智美さん

めがねを通して富士山を見るというのはすごい発想だと思いますが、毎日見ていると、やはり変化がありますか？  
山中：冬は白くてとっても美しく、夏は白くはないですが、とても強い感じがします。

### ▲受賞者に賞状を手渡す村松友視審査委員長

### ●絵部門最優秀賞 高校生・成人の部／上野都志江さん

千葉県在住とのことですが、千葉からは富士山は見えますか？  
上野：はい、見えます。けさも見てきました。家からは見えませんが、江戸川を渡る陸橋からは小さいんですけどきれいな富士山が見えます。  
あの素晴らしい絵は、どこからか写生されたものなんですか？  
上野：いえ、富士山の写真集をいっぱい借りてきて、一番きれいなものを選んで、描きました。

## 展示の経緯 すべての応募作品を展示

コンクールでは作品を大切にしようと、第1回からすべての応募作品の展示をしています。今回も3,488点もの絵画作品と手紙部門の入賞作品で展示室は埋め尽くされ、「私の作品どこにあるんでしょうか？」などの声も聞かれるなど作品を探すのに苦労する一幕もありましたが、12月5日から9日までの展示期間中の入場者数は850人でした。また、展示作業は60人のメンバーがあたり、すべての作品をもれなく張るために配置などを苦労しながらの作業でした。



# 対談「絵の立場から見た富士山、文の立場から見た富士山を語る」

■作家／村松 友視氏 ■画家／橋本 明雄氏

司会：6回目ということで、特色や特徴などコンクールの現状を踏まえてお話ししていただきたいと思います。

村松：応募作品全体のレベルが上がっていますので、そこを突き抜けて受賞するのは難しいハードルになってきたと感じます。例えは今回手紙部門、中学生の部で最優秀賞の作品で「初めて眼鏡を買った。」という書き出しがあり、なんだろうと思ったら、眼鏡をかけたときに物の見方が変わる、物を見る状況によって全く違うことを覚えていく。これが小説だったら、もっとやらしく「長年自分に似合う眼鏡がなかったので、買おうともしなかったが」とか「ようやく」なんてつけてしまう。それが「初めて眼鏡を買った。」と書く作家もいるわけで、これはもう文章の達人ですね。こんな切れ味の良い書き出しと眼鏡という小道具が文章の中で生き生きとしている。余計なことは書くなと教えられました。

なるほど、先生が教えられてしまったということですね。

村松：はい。例えば泥棒を警官が追いかけるのを見て、普通のひとは「逃げるかな、捕まるかな」と思って見ますが、陸

初めて眼鏡を買った。鏡の前でニッコリと笑ってみた。かわいくないと思った。似合ってないと思った。バスにますますみえた。  
眼鏡をかけて、外に出た。富士山を見た。いつも見てる富士山と違うようにみえた。山肌がはっきりみえた。白いドームもはっきりみえた。  
2年前に初めて登った事を思い出した。岩だらけで、上に行くほどに息が苦しくて早く、長い道のりだった事を。  
御殿場に行った。富士宮から見ている富士山では違った。宝永山の位置が違う。大沢くずれの位置も違う。いつも見ている富士山ではなかった。全く別の山のように見えた。富士山はこんなに角度によっては違うということを再確認した。富士宮からの富士山が一番美しく見えると思った。けれど、御殿場で見た富士山もハッとする発見があった。山も人もいろいろな角度からみなぎては全体の姿がわからないと思った。  
眼鏡をかけてニッコリと笑ってみせた。さっきのわいたよりずっとかわいいみえた。部屋の窓から見たあなたは、りりしく私の眼鏡にも写りました。

▲中学生の部 山中 智美さん

上選手だったら「走る姿勢が悪いな」とか思って見てしまう。つまり、物の善悪ではなく、同じ景色でも見る人の目によって違う、それを眼鏡を使って教えてくれました。我々は見慣れた風景には油断しています。見慣れているがゆえに、そこから立ち上がっているものが見えない、見ようとしない。そういうことを含めて「いつもの風景」という言葉にしている。そんな言葉遣いを教わる、基本を考え直させられる作品が出てきています。これは、技術的にみたら、すごく高いレベルなんです。

橋本先生はどんなご感想をお持ちになりましたでしょうか。

橋本：感想の前に、この催しが本当に素晴らしいことを少し自慢したいと思います。市の教育長さんのお考へで、3,500点にものぼる応募作品の全てを、この文化会館の展示場に展示しています。これだけの作品を飾る展覧会はこの展覧会だけだと思います。それだけ、皆さんが出してくれた作品を大事にしているということです。審査のしかたも、厳正に、不公平なく、正しい目で選ぶのは大変難しいですが、26名の先生方が逐次丁寧に見て選んでいます。第1次、2次、3次とどんどん人数を少なくしていく。最終審査では松村先生を中心に投票で決定します。これだけのプロセスを踏んできちんと審査するのは、他のコンクールではありません、自慢できると思います。審査委員長のお話のように、作品が年々向

▲幼稚の部 廣橋 奈央子さん

上しています。作品については、後で作品を見ながら具体的に話したいと思います。

その具体的な部分なんですが、私が見た中ですと、いろんな材質を使っているなど驚いたんですが。

村松：貼り絵のようなものもあります。貼り絵が非常に多い年とか、油絵が多いときとか、わりと傾向があります。では近年の傾向である「擬人化」についてお話ししましょう。富士山を困った時に語りかける相手にしたり、慰めてくれる存在にしたり、あるいは一緒に遊ぶ存在にしたり、文章の面でも、絵画の面でも、富士山を擬人化して描いたり、書いたりするケースが重なっています。

橋本：いわゆる擬人化というのは、人でないものを人に例えて表現する方法です。富士山を人間としてとらえて表現するという。これは絵部門、幼稚の部で最優秀賞に輝いた作品ですが、まさしく両手を上げて子供たちを抱えている姿を描いています。目や口があつたり、個性的で大胆な作品があります。富士山を自分の心でとらえた見方ができる、素晴らしいあります。

村松：他のコンクールですと、また我がコンクールとはスタイルが違いますよね。

橋本：他のコンクールの作品を見ると、本当に素朴な、飾りのない、素直な作品が割合と賞に入っています。

村松：富士宮のコンクールは、そういう作品ばかりではありませんが、すごく飾る面も多いですね。

富士山というのは、なだらかで、シンプルな山ですから、絵や言葉で表すと、どうしても飾ってしまう傾向が出ているんでしょうか。

村松：そうですね。外国の方が応募してきた文章の作品を見ると、「ニッポン」で言葉が必ず入っています。日本の象徴として書こうとする。

やはり、見る場所場所によって自分の富士山がありますね。

村松：富士山がまったく見えないところの人たちが想像する富士山は、もしかしたらものすごいインパクトのある富士山かもしれない。遠くの方の人にあっては、富士山というのは象徴的な存在で、山とは違うかもしれない。

逆に毎日見えるところに住んでいると、普通になってしまいます。だからこそストレートに見ないで遠回しに見ている。そういうのはやっぱり、子供なりに成長していってるということなんですかね。

村松：成長しているんです。この望月真紀子ちゃんの「私の富士山へ」という作品の、いつも富士山を手のひらに乗せて見ているけど、おばあちゃんが病気をしたら手を合わせて拝んだっていうね。遠くて富士山を拝むのとはまた違った、身近に感じる感覚ですよね。これもすごい作品だと思いました。

橋本：擬人化の話から少しばれましたが、擬人化についておもしろいことに作文では高学年になるに従って擬人化の例を引く例が多くなるんですね。絵は逆で、幼児の作品の方が擬人化が絶対多いんですが、先生いかがですか。

村松：絵の場合は幼い人が富士山を自分の遊び相手とか、願いを聞いてくれる存在として描くんですね。文章の場合は、多くの時間を過ごしてきた人が、自分の気持ちが弱気になったときに慰められる大きな存在としての擬人化だと思います。

絵部門、低学年最優秀賞の磯野麻友さんの作品ですが、インタビューで大きい富士山が好きだとおっしゃっていました。この絵は大きい富士山を描いていて、それが幼児の感覚で描くので、たいへん美しく、夢がある。作者の夢がぎっしり詰まっていると思います。しかも、全体的に温かい色でまとめられています。装飾型の素晴らしい作品です。

では、最後に今後の課題やアドバイスなど、村松先生の方からまとめていただけますか。

村松：要するに、こう書くべきだということは絶対にあり得ないわけです。何にもとらわれない、縛られない、自由な発想で我々を驚かせてくれる作品をそのまま私たちへぶつけてほしい。そうすれば最初の頃のような時代の躍動感が出てくるじゃないでしょうか。このままだと、技術ばかり勝ってきて、発想が少し沈んでくる傾向になりかねない。本来の自分が何を本当に感したかを考え、もう一回小学校の低学年の頃の自分に戻って、自由奔放に、骨太なものを作品にぶつけてほしい。そうすると、僕なんかが理想とするものが出てくるんじゃないかなと思います。



▲小学生低学年の部 磯野 麻友さん

なるほど。ぜひ来年も皆さん、発想を豊かにして作品をまた出していただきたいと思います。それでは、村松先生、橋本先生、また来年もよろしくお願いいたします。



▲村松友視先生

わたしの富士山へ  
富士山を手のひらにのせてみた。わたしのいつも見ている富士山は両手をさし出すとわたしの手の上にちょこんとのる。これはわたしだけの富士山、わたしだけのもの。

夏の夜、まだからふじ山を見るとゆらゆらゆれる明かりが見える。一列になって並んでいく。そっと手のひらに富士山をのせるとなはなはわたしの手の申を頂上めがけて登っていく。

今年の夏、おばあちゃんが頭の手じゅつをした日、いつも富士山を見る手へ行った。でもこの日だけは富士山を手のひらにのせなかつた。そのかわりにそっと富士山に手を合わせた。富士山、わたしのお願いをきいてくれてありがとうございます。

▲小学生高学年の部 望月 真紀子さん



▲幼稚の部 廣橋 奈央子さん

上しています。作品については、後で作品を見ながら具体的に話したいと思います。

その具体的な部分なんですが、私が見た中ですと、いろんな材質を使っているなど驚いたんですが。

村松：貼り絵のようなものもあります。貼り絵が非常に多い年とか、油絵が多いときとか、わりと傾向があります。では近年の傾向である「擬人化」についてお話ししましょう。富士山を困った時に語りかける相手にしたり、慰めてくれる存在にしたり、あるいは一緒に遊ぶ存在にしたり、文章の面でも、絵画の面でも、富士山を擬人化して描いたり、書いたりするケースが重なっています。

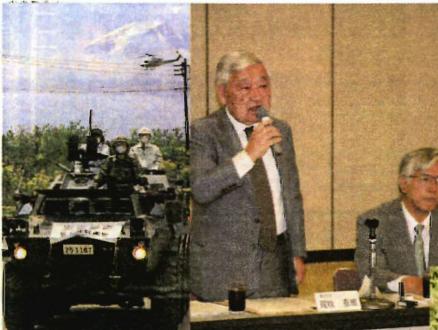
橋本：いわゆる擬人化というのは、人でないものを人に例えて表現する方法です。富士山を人間としてとらえて表現するという。これは絵部門、幼稚の部で最優秀賞に輝いた作品ですが、まさしく両手を上げて子供たちを抱えている姿を描いています。目や口があつたり、個性的で大胆な作品があります。富士山を自分の心でとらえた見方ができる、素晴らしいあります。

**1 富士山火山ハザードマップ検討委員会設置  
6月3日山梨で火山防災訓練**

**富士噴火想定  
初の防災訓練**

1万5000人参加

タブー視返上  
有珠く低周波地で噴火雲



平成13年6月4日 朝日新聞より

**2 国土交通省誕生** 省庁改編により国土交通省誕生（建設省、運輸省、国土庁等が統合）港湾局と一体の中部地方整備局へ（1月6日）。



**3 火山防災ハンドブック全戸配布**

富士砂防が、静岡県、山梨県とともに発行した、火山防災ハンドブックを市町村が増刷し全戸配布（17万5千冊）。住民の火山防災意識を高めた。



平成13年8月23日 静岡新聞より

**4 5万6千台分の除石工事が完了  
H12.11.21の土石流で堆積した遊砂地内のダンプカー5万台分の土砂の除石工事は完了した（12月）。**



**6 土石流観測施設  
グレードアップ！**



岩盤土石流観測施設の整備により、土石流をより迅速に、正確に観測できるようになる。さらに、3年連続の大規模補正予算により、火山監視などIT開発事業が進む。

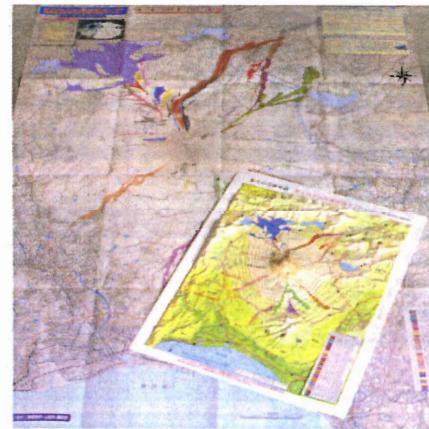
**7 総合学習・  
出前講師**



▲6月7日 浅間大社氏子青年会（浅間大社社務所）

**9 火山災害実績マップと  
立体地図を作成**

富士山火山災害実績マップと立体地図を作成し、関係市町村及び行政機関へ配布し、各方面から高い評価を受ける。



**リサイクルポットが  
地域へ広がり**

市民参加による森づくりが2年目をむかえ「第2回緑のゼミナール」を富士市で開催、地域へ広がりを見せた。（12小中学校、1500人の参加で砂防施設へ2500本を植樹）



**30周年記念事業 全県賞受賞**

「直轄30周年記念事業」で、全建賞受賞。5年間で4回目の受賞。



**10 一日事務長に寺本和子教授**

土砂災害防止月間で「一日事務長」に寺本和子教授（元工事事務所長）を招き、「女性座談会」などを行った。（6月）



次点

**11 ぐるっと360度  
三浦雄一郎さん**

9月11日「富士山奥中道ぐるっと360度」は、公式行事は台風で中止。冒険スキー一家・三浦雄一郎さんや外国人登山家の参加のもと20名余りで、一周踏破しました。



**お問い合わせ先**

■国土交通省富士砂防工事事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

TEL. 0544-27-5221

■富士宮砂防出張所

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1

TEL. 0544-54-0236

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

- FUJISABO通信 ふじあざみ 35号 バックナンバー 34~30号
- 第1~6回 手紙・絵コンクール 入賞者及び 最優秀作品 第6回 手紙部門 最優秀賞作品 本人朗読
- 富士山の砂防
- 富士山砂防ボランティア協会 奨励金

FUJI SABO

MINISTRY OF LAND,  
INFRASTRUCTURE AND  
TRANSPORT